

令和7年度 学力調査の結果の概要及び改善の方向等について

【中学校国語】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 □知識及び技能 (1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ◇全国の平均正答率と比較してほぼ同程度であるがやや上回っている。 □思考力・判断力・表現力、等 A「話すこと・書くこと」 ▼全国の平均正答率と比較して下回っている。 B「書くこと」 ▼全国の平均正答率と比較して下回っている。 C「読むこと」 ▼全国の平均正答率と比較して下回っている。	●文脈に即した漢字や事象や行為を表す語彙について理解すること。 ●相手の反応を踏まえたり、資料や機器を用いたりしながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 ●読み手の立場に立って、表記、語句、叙述の仕方などを確認し、文章を整えること。 ●目的に応じて伝えたいことを明確化し、文章の構成や展開を考慮すること。 ●文章の構成や展開、表現の効果等について、意見と根拠を明確にして考えること。	●漢字や文法に意識を向けながら、話や文章の構成・展開について理解を深める学習の充実。 ●話し合いや発表の活動場面で、資料や機器を用いたり、聞き手の反応を意識したりしながら、自分の考えをまとめ、内容や話し方を調整する学習活動の充実。 ●読み手の立場に立って、文法や漢字、表現技法などの知識を活用し、文章を作成する学習活動の充実。 ●目的に応じて、伝えたいことを明確化し、適切に表現できる文章の構成や展開を考慮する学習活動の充実。 ●文章の構成や展開、表現の効果等に注意しながら、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象を明確にして考えることができる学習活動の充実。

令和 7 年度 学力調査の結果の概要及び改善の方向等について

【中学校数学】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 □ 「数と式」 ▼全国平均より7%下回っている。 □ 「図形」 ▼全国平均より3%上回っている。 □ 「関数」 ▼全国平均より4%下回っている。 □ 「データの活用」 ◇全国平均より7%上回っている。	●数量について、文字を用いて表現すること。 文字式を用いた説明 ●四角形(平行四辺形)であることの証明から、新たにわかること(性質)を選ぶ ●変化の割合の基本的な知識・技能 ●相対度数に関する基本的な知識・技能において、確率に関して数学的な表現を用いて説明すること。	●文章から文字式を立式の意味を読み取る練習 ●基本的な図形の性質の理解 証明した事柄から、新たにわかることや、関係性を見いだす ●様々な関数を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を相互に関連づけて理解できるようにする。 1次関数の基本的な知識・技能の定着 ●相対度数・確率の基本的な知識・技能の定着 起こりやすさの傾向を捉え、判断し、その理由を説明・話し合いする活動の充実

令和7年度 学力調査の結果の概要及び改善の方向等について

【中学校理科】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【概要】 ○今回の理科の出題については、CBT(コンピュータを使い回答するもので、受験者統一問題1問、受験日によって異なる問題2問、受験生個々に割り当てられた問題を16問、計26問を解く試験となっていました。 【全体評価】 ○全体的な評価としてはほぼ全国と同じような分布となっていました。5段階中、1の割合が0という状況でした。 【全国との比較】 ○全体的に全国と比較可能な設問に対して、 ①全国より正答率が高いのが10問中4問(1問は正答率100%)、 ②同程度(±3ポイント)1問、 ③低いもの5問(最低で-20ポイント)という結果でした。 (同じ領域でも、問題が個人で異なるため、他教科とは違う分析の方法をしています。)	知識 ・知識として定着してほしい内容の定着。 思考 ・事物を科学的に考え、事実をもとに考察を積み上げていく力。	知識 ・確実に身に付けてほしい内容については、授業の初めに確認をしたり、小テストを実施して定着をはかる。 思考 ・考察の手順を提示しながら考察を進め、どのように考えていけばよいかの枠組みを考えられるようにしていく。

【家庭用】 令和 7 (2025) 年度 簾舞中学校 【全国学力・学習状況調査結果分析】

【生活習慣や学習環境に関する調査について】～全国の結果と比較して、肯定的な回答・否定的な回答の割合が高かった質問を中心に～

※「◎：上回っている ◇：下回っている」 ※全国と比較して【± 5】で顕著なものを記載。

	質問番号・質問事項
◎	(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
◎	(7) 将来の夢や目標を持っている。
◎	(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
◎	(12) 学校に行くのは楽しいと思う。
◎	(25) これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった。
◎	(31) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
◎	(40) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
◎	(47) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。
◎	(53) 数学の勉強は好きだ。
◎	(54) 数学の授業の内容はよく分かる。
◇	(19) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）。【全くしない38.2% 全国15.4%】
◇	(35) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。
◇	(36) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

R7 (2025) 年度 今回の結果から分かること

- 「自分のこと・相手のことを認め合う（相互承認）」（97.1%）、「学校に行くのは楽しい」（94.2%）、など「自分が大切にされている」と実感できる肯定的な回答が多い。
- 「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった」（94.1%）と地域の自然に目を向けている生徒が多かった。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」（85.3%）、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」85.3%。など集団との関わりの中で学び・成長していると感じている生徒が多い。
- ◇「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に「全くしない」と回答した生徒が 4 割近くおり（全国15%）、家庭学習の習慣が定着していない生徒の割合が多い。
- ◇「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」（73.6%）、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」（64.7%）などで全国平均を下回っており、学習した内容を深めたり、次へつなげるなど粘り強さに課題がある。

今後、取り組んでいきたいこと

- 現在取り組んでいる【学年担任制】により、生徒一人一人に教師が関わる事が出来ており生徒の安心感につながっているものと考えます。今後も継続して取り組んでいきたい。
- 数学科における【習熟度別少人数指導】により、数学に対する理解が深まっていると考えられる。今後も継続して取り組んでいきたい。
- ◇課題としては、授業や学校で学習したことをより深めて考えたり、さらに探究するなど主体的な学習意欲と家庭学習の習慣が望まれる。